

環境

小学校高学年

中学校

高校

社会

総合

学級活動

その時 歴史が動いた 43分

わが会社に 非あり ～水俣病と向き合った医師の葛藤～

(2009年放送)

この番組の良さ



水俣病とは

我が国の公害病の原点といわれる水俣病。手足の感覚がなくなり、身体が震え、話すこと見ることさえもできなくなる病気です。重症になると死に至ります。その原因は、化学工場が海に垂れ流していた工場排水に含まれる毒性の強い物質・有機水銀でした。

細川一とは

この事実を、企業の側にいながら明らかにしようと苦しんだ、一人の医師がいます。企業の附属病院の院長である細川一（はじめ）医師です。「私には会社に忠実である前に、医者としての天命がある。」—そう考えた細川医師は、企業側の人間でありながら、未曾有の病の原因究明に乗り出します。

詳細な調査と実験を繰り返し、ついに病気の原因が、自らの会社であるチッソ（新日本窒素肥料株式会社）にあることを突き止めたのでした。

番組活用のポイント

時代背景を考える

「もはや戦後ではない」と経済白書が記した昭和31年（1956年）、日本の都市部では経済発展がもたらした繁栄を享受し始めていました。その豊かな暮らしを支えた一つが、重化学工業です。

当時の時代背景を知ることにより、経済発展の中で犠牲になった人々の生活や生命の尊さについて、理解を深めることができます。

一人の人間として考える

細川医師は、分け隔てなく患者を受け入れ、信頼を得ていました。昭和31年4月21日、事件が起こります。5歳の女の子が全身をけいれんさせ病院に運び込まれました。1週間後には、妹も同じ症状で運び込まれてきます。「同じような病気の人が近所には何人もおられます。」そう母親が告げました。

チッソは隠蔽に走りますが、細川医師は「真実を確認できるのはチッソの内部にいる、自分だけ。」と一人で行動を始めます。

医師としての信念を大事にし、水俣病と向き合い続けた細川医師。その苦悩を考えることで、一人の人間としてどう行動したらよいか深く考えることができます。

企業の社会的責任について考える

当時の水俣市の人口およそ5万人のうち、チッソに勤める人は就業人口のおよそ半分。さらに市の税収の半分以上がチッソからもたらされていました。市はまさに、チッソの企業城下町でした。唯一の総合病院も、チッソの附属病院でした。

院長である細川医師は、企業側の人間でありながら、この水俣病を最初に発見し、明らかにした人々の一人です。企業の社会的責任という視点からも、この問題を考える必要があります。

学習展開例

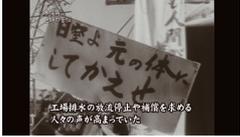
対象校種：小学校 授業時間 45分×2



海陽町立海部小学校
教諭 溝内正剛

教諭

もはや戦後ではない 人命は生産より優先するということを、企業全体に要望する

時間配分	学習活動	教師の支援
10分	①公害について、知っていることを発表する。	○我が国の四大公害病や環境破壊、環境汚染等の原因や問題について、知っていることがあれば発表するよう促す。
20分	②番組を視聴しながら考える。  <p>視聴 TV 水俣病の症状と原因、そして医師としての責任を全うしようとした一人の医師を紹介する場面。(開始～3分3秒)</p>  <p>高度経済成長期の日本と、公害問題との対比や、細川医師の苦悩の場面。(3分3秒～20分30秒)</p>	○開始から3分3秒の場面で一時停止をする。 ○水俣病の原因や、患者や家族の苦悩などを考えながら視聴させる。 ○細川医師の立場(一人の医師として、また会社の附属病院の医師として)について、必要であれば説明を付け加え、理解した上で視聴できるようにする。 ○当時の時代背景(高度経済成長期であり、環境より経済発展が重視されていた時代)について考えながら、視聴するよう促す。 ○20分30秒の「細川は悩みます。」のナレーションの後、一時停止をする。
15分	③番組を半分視聴後、感想を話し合う。 ・水俣病について考える。 ・細川医師の苦悩について考える。	○自由に意見が言えるよう配慮する。 ○水俣病の原因や、症状について、また、患者や家族の苦しみについて、意見が出るよう働きかける。 ○「工場が白か黒かを見極めるのは会社の医師としての責任だ。」と言った、細川医師の思いについて考えられるようにする。 ○水俣病患者をどう救い、家族をどう守ればよいのか、問題提起を行う。
5分	①前時の学習を振り返る。	○前時の学習時のキーワード(水俣病/チッソ/高度経済成長)を提示し、本時の学習につなげる。
25分	②番組を視聴しながら考える。  <p>視聴 TV 公害問題に対する社会的意識の高まりと、証拠隠蔽に走る企業。(20分30秒～25分27秒)</p>  <p>チッソを退職し、故郷に帰った細川医師と、病に倒れ、臨床尋問を受ける場面。(25分27秒～最後)</p>	○20分30秒あたりから番組を再開する。 ○原因がわかって、十分な対策を講じない会社について考えるよう促す。 ○25分27秒の「11年前のことでした。」のナレーションの後、一時停止をする。 ○高度経済成長の影の部分に気が付くよう呼びかける。 ○病床にあっても真実を語ろうとした、細川医師の決断について、考えながら視聴するよう話す。 ○番組の最後まで視聴を行う。
15分	③番組視聴後、感想を話し合い、意見をまとめる。 ・水俣病訴訟の勝訴について考える。 ・これからの企業のあり方について考える。 ④環境を守るために、今後自分たちがすべきことを考える。	○自由に意見が言えるよう配慮する。 ○患者側の勝訴で終わったが、亡くなった方や、その家族の痛みは癒えないこと、今も苦しみは続いていることを話す。 ○「人命は生産より優先する」という言葉の重みを、考えるよう話す。 ○この問題を今後も風化させないよう、考えさせる。

環境